

留学生は8月25日から、9月3日にかけてオリエンテーションや歓迎イベントを楽しむことが出来る。ロチェスター工科大学が迎える留学生は、金沢工業大学とは比較にならないほど多く、私が会った留学生だけでも優に100人は超えていると思われる。挙げれば限がないほどにさまざまな国から学生が来ているが、中でもインドからの留学生が最も多く、約半数がインドおよびその周辺からの学生である。

その中で、私は多くの留学生たちと知り合うことが出来た。彼らと自己紹介をする上で共通していることは、日本を誰もが知っていることである。また、専攻も必ずといっていいほどよく聞かれるため、機械工学のうちロボット工学を主に学んでいると答えれば、日本のロボット技術が他国を圧倒していることを知っている学生は、さらに興味を示してくれる。さらに、日本そのものに強い関心のある学生が多く、母国やアメリカで日本語を学習したことがある、またはこれから日本語を学びたいと強く希望する学生とも多く知り合うことが出来た。よく交流がある留学生の出身は、ウクライナ、カザフスタン、インド、台湾、韓国、ベトナム、サウジアラビア、ジャマイカなどで、これらの国からの留学生の数も比較的多い。

本学の学生は、自由に住む場所を決めることが出来る。大概の学生は大学が提供するアパート、ホテル、および寮に住んでいる。私は大学敷地内にある寮に住んでおり、各施設への行き来が最もしやすい居住区である。学生寮は2人部屋が最も多く、一部が1人部屋、もしくは4人部屋である。二人部屋の広さは約八畳で、ベッド、机、椅子、棚、および電話線、テレビ用端子、LAN端子が人数分用意されているが、照明は各自が用意しなければならない。トイレ、シャワー、が供用でバスタブはほとんど無い。また、電子レンジと小さなキッチン、ソファとテレビのあるラウンジが各フロアに設置されている。地下にはコインランドリー、自販機などがある。購買、飲食施設、各大学施設への行き来が最もしやすいと言う利点はあるが、利用料が大学のアパートや学外の居住施設に比べてむしろ高いため、設備や管理に対する不満の声も少なくない。

私は英語の強化のために English Language Center (ESL) で授業をとりながら、美術への興味を満たすために美術史の授業を受けている。英語は、学期初めに受けた試験の結果から、読解力、作文、および英会話の授業を受講している。ESLには私の他にも日本人学生が10人近く来ており、それぞれ目的が異なるが、京都コンピュータ学院の留学プログラムでやってきた学生、他の米国大学へ入学するために英語を勉強する学生が大半である。美術史は授業を受けるための必要単位がなく、講義形式であること、また、個人的にも興味があるために受講している。全てのクラスに当てはまることは、学生と教員の会話が多いことである。講義中に教員がさまざまな疑問を問いかけ、学生は遠慮なく意見を述べる。学生たちの疑問も講義中にいつでも発言することを許されており、教員も講義時間を気にすることなくそれに答える。そのため、授業は知識を得る場ではなく、自身の疑問を解決する場と言ったほうが良いだろう。

ロチェスター工科大学では、正規の学生として扱われるためには週に最低12時間の授業

を取ることが条件である。私の受講している授業時間は、週に 13 時間と少ない。しかしながら、英語能力の不足分を補いながら学習しなければならないため、空き時間を利用して課題をこなすのが精一杯である。寮の学生は深夜まで騒がしくしているが、私は課題のために夜遅くまで自室にこもり、課題を終えると床に就く日がほとんどである。他の学生は私以上に課題を課せられているはずであるが、あまり机に向かっていない様子は見かけられない。彼らは週末の時間を必ず遊んで過ごし、課題などを全くせずに月曜まで持ち越すことも多いため、おそらく提出期限直前に仕上げる場合がほとんどであると思われる。私はそのような方法をとったことがほとんど無く、金沢工業大学にいた頃は、課題は出来るだけ早く、可能ならばその日のうちに終わらせていた。したがって、私は友人との付き合いは保ちつつ、自分の歩調を乱さないように日々注意を払っている。